

消費スタイルの変化に関する研究

近年、ミニマリズムといったモノの消費や所有を減らす暮らし方に注目が集まっている。このようなライフスタイルは「自発的簡素」という。自発的簡素を実践する人たちは、このライフスタイルが精神的な充実や満足をもたらすことを主張してきた。先行研究では「自発的簡素を実践する人ほど生活満足度が高い」という結果を示すものがある。一方、「自発的簡素の実践が必ずしも生活満足度にプラスの影響を与えるとは限らない」という結果を示すものもある。本当に自発的簡素は生活満足度を高めるのだろうか。現状では自発的簡素と生活満足度の関連を検証した研究は乏しく、日本人の若者に焦点を当てた研究は確認できなかった。そこで、本稿では自発的簡素の関与が大学生の生活満足度に与える影響を明らかにすることを目的とした。そして、アンケートを用いて若者の消費を避ける意識や行動と生活満足度の関連を調査した。その結果、「衝動買いをしない人ほど生活満足度が高い」ことがわかった。今後は個人の属性も加味したより実証的な検討が望まれる。